

解散の経緯

7月22日、役場町民ホールで行われた総会において、発足から53年以上の歴史を持つ嵐山町自衛隊協力が解散しました。

昭和42年の発足以来、自衛官募集相談員としての協力、町の催しに自衛隊が参加する際の支援活動、講演会への参加及び自衛隊関連施設への視察研修等の活動を精力的に行っていました。しかし高齢化に伴い役員体制の維持が難しくなってきたことや、会員数の減少が近年特に顕著となり、自衛隊の発展に寄与するという会の目的を十分に果たしたとの考えも相まって解散が決定されました。



解散総会の様子

総会後には、解散を惜しむ声が上がリ、会員同士で過去の視察研修等の活動を懐かしそうに回想する様子が見られました。

会長経験者からお話を伺いました



松本 武久 氏

会長在任期間
平成20年6月～平成26年7月



小久保 一徳 氏

会長在任期間
平成28年7月～令和2年7月

今回は、会長経験者でもある松本武久氏と小久保一徳氏にお話を伺うことができました。

Q: 当時の嵐山町における、自衛隊による土木工事のご記憶はありますか？

松本氏: 今の若い方たちには想像がつかないかもしれませんが、当時は土や砂利の道路でした。雨の日などは道がグチャグチャで、隣の家に行くのに長靴を履いていくようなこともありました。自衛隊の方たちが道路を整備してくれ、本当に頭が下がる思いだったことを思い出します。

また、自衛隊協力の発足当時、多くの地区の方々が会員になり、中でも吉田地区は全世帯が加入したと聞いています。当時の人たちの感謝の気持ちが分かります。

Q: 自衛隊協力で活動を通じて、印象に残ったことはありますか？

小久保氏: 平成22年の富士総合火力演習を観覧した際、隊員の方々が日頃からの訓練の成果を発揮している姿には頼もしさを覚えました。新聞やテレビなどでも、自然災害の際に活躍する自衛隊の活躍が注目されていますが、視察研修に参加した際、国防の分野でも日本の平和のため、私たちの知らないところで陰ながら奮闘していることを知ることができました。今後も自衛隊への感謝の気持ちを忘れずにいたいと思っています。

問合せ 地域支援課 ☎62-2152

嵐山町自衛隊協力が解散

～53年の歴史に幕～

嵐山町自衛隊協会とは

自衛官募集の協力や自衛隊関連施設への視察研修の活動等を行う地域住民の会員からなる組織です。自衛隊と地域住民との架け橋となっていました。

視察研修時の写真



護衛艦による体験航海



富士総合火力演習

発足の経緯

菅谷村報道や町の広報によると、町制施行の前年にあたる昭和41年12月11日に嵐山町越畑地内にある串引道路の竣工式が行われ、同日に会の前身にあたる「自衛隊協会」の発足式が行われたとあります。その後、昭和42年4月15日の町制施行同日に、「嵐山町自衛隊協会」が発足したと記されています。

今では町内のほとんどの道路が整備・舗装されていますが、当時はほとんどの生活道路が幅6尺（1.8m）程の土や砂利の道であり、集落間を移動するだけでも大変なことだったようです。村の財政が大変厳しい状況にある中、自衛隊法第100条に基づく「自衛隊の訓練の目的に適合する土木工事」として、現在の町道吉田339号線及び389号線（蟹沢道路）や町道2-7号（杉山道路）、町道1-3号（十三間道路）の他、当時の七郷小・中学校のグラウンドなどが自衛隊の機械力と機動力により整備・拡張されました。

会の設立当初の会員数は700名を超え、その人数を見てもいかに道路の改修が地元住民の悲願であったかを伺い知ることができます。当時を知る人の中には、これらの道路を、親しみを込めて「自衛隊道路」と呼ぶ人もいます。



昭和42年の串引道路
(平成17年9月号の広報嵐山より)



現在の串引道路